



全部の生徒に優しい先生でいてあげてね

かば 川本貴弘 1985年、大阪西成。何にも動じず、何にも屈しない、教師(達)がいた!!
監督作品 2万人以上が完成を待ち望んだ、実話に基づく《80'熱血青春エンタテイメント》!

1985年、バブル景気を迎える日本に、世の中の矛盾が集まったような地域があった。大阪西成区。出自、偏見、校内暴力、すさんだ家庭……過酷な環境の中でよりよい明日を夢見て、悩み、苦しみ、しかしたくましく生き方を模索するたくさん子どもたちがそこにいた。彼らと向き合い、正面からぶつかった実在の教師・蒲益男(かば・ますお 2010年に58歳で死去)を知った監督は、2年半にわたる取材を経て2017年にパイロット版を製作。2万人を超える人々からの完成を望む声に押されて企画から7年、ついに映画は完成。ソーシャルディスタンスが叫ばれる未曾有の混乱の今、真の人間同士のつながりとは何か、これからの時代を生きるヒントがこの映画にはある。蒲先生を演じるのは自身も大阪出身である山中アラタ。ヒロインの新任教員を映画初主演となる折目真穂。もうひとりのヒロインであるかつての教え子にNMB48を卒業後、女優として活動中の近藤里菜。共演に木村知貴、石川雄也、四方堂亘らの実力派に加えて関西演劇界から鼓美佳、浅難拓、山本香織らが参加、さらにアニメ『ジャリン子チエ』のチエ役でもおなじみ中山千夏が賛助出演している。

COMMENT

思春期の頃、この映画に登場することもたちと同じ境遇の級友たちがいた。

あるとき、私の言動がもとで、級友たちに弾劾され、私はレイシストなんだと気づかされた。

この作品を観たときに、その記憶が蘇り、背筋がぞっとした。いまも残る風景。子どもたちは、子どもたちだけで、気づいていく。周りのおとなたちは、子どもたちが気づいたことにすら気づかない。が、この「かば」せんせいたちは、そんな子どもたちの気づきの場に立ち会いたい、かかわりたいと思う。そして、いつのまにか、子どもたちに心動かされる。テーマはそこへと収斂していき、おとなたちの願望で子どもたちをえがく一方的な教育映画とは一線を画す。『かば』は、社会的でありながら、笑えて、涙して、捻れや断絶に打ち克っていきその道行きが絶妙で、とても映像的で、美しい。みんな、観ないと!

阪本順治(映画監督)

腐敗してクソまみれの世の中で押し潰されそうになりながらも奮闘して生きている、実在のかば先生たちや中学生たちに対して、作り手の優しく、かつ慈愛に満ちた眼差しに触れて、私は幾度も涙を流してしまった。孫のような世代の作り手に対して失望感を抱いていた私だったが、この作品を観てもう一度、彼らに希望を託してみようと思えるようになった。この優しさこそが、狂ったニッポンを立て直す必須の条件だからだ。

原一男(映画監督)

笑った。そしてバワフル。全員が主役の映画だ。西成区と大正区、木津川を挟んで在日や沖縄の人が多くいる土地。丹念に描かれた風景と生活が全員を主役に押し上げる。かといって常に中心にいるわけでもない。他者を前にして脇にも回る。現実がそうなのだ。主役中心の世界なんてない。この映画のように、人は人を支えて生きている。

瀬々敬久(映画監督)

初めて大阪を、大人や子どもを丸裸にした映画か。井筒和幸(映画監督)

学校のあたりまえを問い直す! 映画『かば』上映と、川本貴弘監督を交えて感想・意見交流会

■と き: 2024年3月30日(土) 12時30分開場 12時45分開演

■ところ: ラポールひらかた 4階 大研修室

枚方市新町 2-1-35 (TEL072-845-1602) 駐車場・障害者用のみ有

京阪枚方市駅下車 北へ500メートル

■参加費: 一般 1,000円 障害者の介護者無料 高校生以下無料 チケット販売中

■内 容: 午後1時~3時15分 『かば』上映(135分) 休憩をはさんで

午後3時30分~4時50分 川本貴弘監督を交えて感想・意見交流会

■主 催: 障害者の高校問題を考える大阪連絡会

学びをひろげるわたしとO(まる)人の会

「障害」児・者の生活と進路を考える会

■共 催: 障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議

劇団金夢太郎 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会



※連絡先 松森俊尚 090-1960-3469
matumori@crux.ocn.ne.jp